

水野谷武志ゼミ1-11

参加学生数 23 名



水野谷 武志

地域経済学科
教授

北竜町 ひまわりパークゴルフ場にて

買い物難民問題の現状とその対策

研修地：滝川市・北竜町

● 研修目的

地域スーパーの撤退が相次ぐことによる買い物難民問題が深刻であり、とりわけ面積が大きく過疎化が進む北海道では切実な課題である。そこで本研修では、道内で買い物難民問題に取り組む2つの先進的領域を調査し、改善策や今後の課題について考えることを目的とする。

研修先・日程

- 8月28日 滝川市下見(市役所、滝川駅や中心市街地、イオン、東滝川地区など)
- 8月29日 滝川市職員による講演・意見交換会(滝川市役所)、滝川市郷土館を見学
東滝川連合町内会会長による講演・意見交換会(滝川市東滝川地区転作研修センター)
東滝川地区住民に聞き取り調査(同センター)、セイコーマート東滝川店周辺の住民に聞き取り調査
- 8月30日 北竜町職員による講演・意見交換会(北竜温泉会議室)
北竜町郷土資料館を見学
Aコープ北竜町店周辺の住民に聞き取り調査
- 8月31日 北竜町ひまわり長寿会連合会役員との意見交換会(北竜温泉会議室)
パークゴルフコンペ(ひまわりパークゴルフ場)
打ち上げBBQ(金比羅キャンプ場)

写真① 滝川市役にて意見交換。② 北竜温泉の宿でミーティング。③ ひまわりの里をバックに。④ 北竜町郷土資料館を見学。⑤ 北竜町で聞き取り調査。⑥ 北竜町民との意見交換。



● 総括

Aコープ閉店をきっかけに動き出した2つの地域、すなわち①セイコーマートを誘致して「ミニ・セコマ」第1号店が2017年5月にオープンした滝川市東滝川町、②スーパーをふくむ複合商業施設が2018年春にオープンする北竜町を調査対象とした。

①では、町内会を中心とした市民による地道で直向きな誘致活動、地域貢献を理念に掲げるセイコーマートがこれに応えたこと、さらにセイコーマートがAコープ店舗を再利用することで初期費用を抑えることができたことが鍵であった。住民主導によるコンビニ誘致が成功した事例として注目できるが、品揃えの充実や売上維持などの課題について、地域住民とセコマが今後も協力関係を築いていくことを期待したい。

②では、町唯一のスーパーの撤退を町のインフラの危機と捉え、国の助成制度申請による複合商業施設の建設を町役場が主導したこと、スーパーの商品納入においてコープさっぽろの支援を受けることができたことが鍵であった。北竜町で新たに開設される複合商業施設が町民の理解と協力の元に売上を保ち、町の新たな拠点として機能することができれば、買い物難民問題対策の1つのモデルとなる可能性を秘めていると感じた。

学生研修記

高貝 偲乃

地域経済学科 2年
士別翔雲高校出身

工藤 諒也

地域経済学科 3年
旭川実業高校出身

買い物難民問題を調査してみよう

水野谷ゼミは買い物難民をテーマとして滝川市東滝川町と北竜町を調査してきました。東滝川では唯一のスーパーであったAコープが撤退してしまい、町内会を中心としたコンビニ誘致により道内初のミニセコマが出来たとして新聞などで取り上げられていました。ミニセコマはコンビニであるため値段が高いことや商品の種類などは限られていますが、長時間の営業や日曜日にも営業していることでいつでも買い物に行けて、休憩スペースで会話ができることが嬉しいなど、実際に町内会長や住民の人から話を聞いて、近く買い物ができる場所があることは高齢者や車を持っていない人達にはとても大切だと感じました。今回の研修で買い物難民が問題となっているところは過疎地域でもあり、地域住民の一人ひとりが問題と向き合うことが必要であることを学ぶことができました。

北竜町の買い物難民に対する取り組み

今回、水野谷ゼミは買い物難民というテーマで滝川市と北竜町に行きました。北竜町では、Aコープというスーパーの撤退が決まり、新しい複合商業施設が建設されるという新聞記事を見て実際に現地に行きました。

自分達はアンケート調査を行い、Aコープの撤退と複合施設の建設について町の人達の話聞くことができ、住民の意見を町に反映させていくことが重要だと考えました。住民の意見が取り入れられ、複合商業施設がオープンするまでの空白期間に移動販売が導入される予定です。

今回の地域研修では自分の行ったことのない町に行き、新たな町の魅力に気づくことができ、その他の町にも様々な町の魅力があり、町が維持できているのではないかと感じ、学ぶことが出来ました。

